

帝人株式会社 ■ コーポレートコミュニケーション部

●東京本社 〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号 霞が関コモンゲート西館

TEL.03-3506-4055 FAX.03-3506-4150

●大阪本社 〒530-8605 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワーウエスト

TEL.06-6233-3413 FAX.06-6233-5040

●URL <https://www.teijin.co.jp>

2022年 11月 17日

温室効果ガス排出量の削減に向けて 欧州カーボンマネジメント会社との業務提携

帝人株式会社

帝人株式会社（本社：大阪市北区、社長：内川 哲茂）は、製品のライフサイクル全体における温室効果ガス（GHG）排出量削減に向けた施策を加速すべく、このたび、欧州のカーボンマネジメント会社である GreenDelta GmbH（グリーン・デルタ社、本社：ドイツ・ベルリン）、Makersite GmbH（メーカーサイト社、本社：ドイツ・ミュンヘン）、Minviro Ltd.（ミンバイロ社、本社：英国・ロンドン）、PRé Sustainability B.V.（プレ・サステナビリティ社、本社：オランダ・アメルスフォールト）と業務提携を実施することとしました。

これは、当社がこれまで取り組んできた炭素繊維、アラミド繊維などの製造工程における GHG 排出量の削減に向けた取り組みを一層強化するとともに、顧客製品を含めた幅広いサプライチェーンにおける製品ライフサイクルの環境負荷低減を図るものです。

1. 背景

- （1）近年、気候変動の緩和と適応、サーキュラーエコノミーの実現など、地球環境の目標達成に向け、製造業においても、さまざまな取り組みが進められています。
- （2）特に、製品のライフサイクル全体における環境負荷を定量的に評価する手法である LCA の導入や、とりわけ CO₂ をはじめとする GHG 排出量の可視化については、厳格な対応が求められています。
- （3）こうした中、当社では、炭素繊維、アラミド繊維などの製造工程における GHG 排出量の算出方法を確立、可視化するとともに、繊維強化プラスチック（FRP）を使用した航空機、自動車部品などのリサイクル素材の利活用に向け、環境負荷に関するデータのトレースを行うための取り組みを進めています。
- （4）一方で、市場によっては、より様々な素材、部材、製品の環境負荷を総合的かつ統合的に可視化することで得られる定量的な情報をもとにした具体的な対策を求める傾向が強くなっています。
- （5）そこで当社は、自社の算出ノウハウに加え、製品のライフサイクルにおける環境負荷を合わせて分析することで、市場の様々なニーズにワンストップで対応すべく、既に関連の対策が進んでいる欧州においてカーボンマネジメントに特化したソフトウェア開発、データ分析、コンサルティングの実績を有する 4 社と業務提携をすることとしました。

2. 取り組みの内容

- (1) このたびの提携は、GHG 排出量算出に関するデータやソフトウェアの活用によって、GHG プロトコル(*)に則して、自社の活動に関連する他社からの GHG 排出量 (Scope3) の削減に向け様々な素材、部材、製品の GHG 排出量を可視化するとともに、削減策を検討していくものです。
- (2) グリーン・デルタ社は、無償で使用が可能なソフトウェアを展開するとともに、LCA 全般に関するコンサルティングを手掛けています。
- (3) メーカーサイト社は、AI などを活用した製品やサプライチェーンの意思決定をサポートする取り組みを進めています。
- (4) ミンバイロ社は、電池材料などの鉱物分野に強みを持つ、LCA ソフトウェアやコンサルティングを提供しています。
- (5) プレ・サステナビリティ社は、1990 年代から環境関連のデータを扱う老舗としての実績を活かし、LCA 全般に関する分析やコンサルティングを行っています。
- (6) これら 4 社の知見と、帝人がこれまでに蓄積してきたノウハウを融合することによって、より幅広いサプライチェーンに対応可能な LCA や GHG 排出量の検証を行い、環境負荷低減に役立てることとしています。

(*)GHG プロトコル：世界標準として用いられている GHG の算定と報告の基準。Scope1 から 3 までの 3 区分で CO2 排出量算定の範囲を示す。

3. 今後の展開

- (1) 帝人は、このたびの取り組みにより、自社の炭素繊維やアラミド繊維ならびに FRP に関連する GHG 排出量のデータ分析を進めるとともに、Scope3 における GHG の削減にも寄与する環境負荷低減に向けた対策を強化していきます。
- (2) さらに、これから収集・追跡していくリサイクル素材の環境価値に関するデータとの融合も進め、航空機、自動車業界などの顧客企業が有する関連情報も合わせて分析し、製品の材料調達から、使用後の廃棄、リサイクル、再使用に至るまでの環境負荷を可視化することで、より信頼性の高い LCA の定量的データとして開示することを目指します。
- (3) 帝人は、持続可能な社会の実現に向けて、人を中心に考え、「Quality of Life」を向上させる革新的なソリューションを提供していくとともに、事業活動に伴う環境、社会への負の影響が最小限となるよう努力し、長期ビジョンである「未来の社会を支える会社」となることを目指していきます。

以 上

【 当件に関するお問合せ先 】

帝人株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL: (03) 3506-4055